



## 谷口 研二

### 奈良工業高等専門学校 学校長

学生の皆さんは小学生の頃、誕生日やクリスマスの日がやってくるのを一日千秋の思いで待っていた経験があるでしょう。そんな待ち望んだ楽しい日もその日がくれば、あっという間に過ぎ去ってしまいます。私は今、それと同じ想いでこの文章を書いています。5年前、心待ちにしていた奈良高専に赴任しました。そして1年、2年が経ち、先ごろこの原稿を依頼されて退任が近いことを改めて認識しました。楽しく過ごした奈良高専を離れるのは残念ですが、退任後はまた別の世界で仕事に邁進していくつもりです。同じ時期に入学して同じ頃に卒業する現5年生は同期生のような気がします。卒業後も本校に在籍した一員(同窓生)として奈良高専の発展に陰ながら応援していきたいと思っています。

奈良高専の校長に決まった時、新しい教育に一步踏み出せる嬉しい気持ちで一杯でした。どこの大学でも「高専卒は良く勉強する。何よりも技術者としての心構えができています」と言われるように、その頃、勉強熱心な編入生の存在が大学で話題になっていました。怠惰な大学生の現状を打開する鍵は高専教育にあると感じて、その不思議を探りに本校に赴任してきました。そして最初に気付いたことは、教員の意識や持ち時間の多くが学生に振り向けられていることでした。たとえば、実験・実習のレポート提出は学生にとって辛いことですが、それ以上にレポートを読み、採点する先生方の苦労も大変なものです。先日、受け取った専攻科生のレポートには出題者が想定もしていない豊かな発想が数多く見受けられ、楽しく読ませて貰いました。この裏には教員の日頃の地道な指導があると強く感じた次第です。もちろん、高専教育の充実には、先生方の努力だけでなくそれに応えようとする学生の存在も欠かせません。学生は15歳の頃に高専を選択しただけあって技術者を目指す意識が高いように思えます。面白いことに、最近、大学では高専教育を手本にした教育改革が始まっています。理論と実践力とのバランスの良い教育を通して社会で通用する人材が育成できると判

てきたからです。しかし実際のところは、看板(教育制度)を取り替えただけで実践教育ができる訳ではありません。学生に時間を割く意識を持つ教員と、技術者志向の強い学生がいる高専だからこそ実践教育が上手く機能しているのです。そんな教育を受けた皆さんは、卒業後、同年輩の人たちに比べて手厚い教育を受けてきたと気付くことでしょう。一握りの人しか経験できない高専教育に自信と誇りを持ってください。

話題は変わって、在任期間中、学生の活躍に何度も感動させられました。今年1月の全国高専ラグビーフットボール大会の決勝戦では惜しくも1点差で負けましたが、過去の大会の中で、あれほど応援団が一体となって盛り上がった試合はありませんでした。One for all, all for oneの精神の下、一丸となって全国大会優勝を目指して練習を積み重ねてきた選手を誇りに思います。

さらに、昨年未の悲願だったロボコン全国大会制覇とロボコン大賞の同時受賞も素晴らしい出来事でした。2年前のことですが、惜敗したチームのメンバーが「数百回に一回起こる誤動作を解決しないまま試合に臨んだ私たちの負けです」と言った言葉は忘れることができません。この立派な技術者魂を持ったメンバーだからこそ本年度、全国大会制覇ができたのです。

もちろんそれ以外のコンテストや試合などでも活躍した学生が大勢いましたが、紙面の都合上、それらを紹介できないのが残念です。

人は年齢を重ねれば、それだけ生きている期間を短く感じます。同じ一年なのに、若い人には「十分な時間」があり、年配者には「あっ」と言うほどの短い間しかありません。学生時代、悩みぬいて各地を旅していた時、偶然に出会った老人が「若い頃に戻れるならどんな苦労があっても君のような若い年頃に戻りたい。まだまだ夢がみれる若者がとつても羨ましい」とつぶやいた一言が私の生き方を考える大きな契機となりました。悶々としていた頭の中に真っ青な空が広がって気持ちがはっきりと切り替わったのを覚えています。

若い皆さんには知力や体力を鍛える充分な時間があり、高専にはやりたいことができる環境があります。一步前に踏み出せば扉の向こうには全く違う景色が広がっています。限られた時間の中で色々なことにチャレンジし、多くの失敗の中からそれぞれの生きがいを見出し、魂がゆさぶられる感動的な体験をしてください。それでこそ勇気を持って人生の扉を開けた甲斐があるというものです。

私は何かに一生涯懸命に打ち込んでいる学生を傍からじっと見ているのが大好きです。「学生チャレンジプロジェクト」はその想いを具現化する一つの手段でした。そんな校長の思いにしっかりと応えてくれた学生諸君に心から感謝しています。

これからは若い皆さんが主役の物語の幕開けです。皆さんの今後の活躍と明るい未来を祈念しながら、この辺りでお別れとします。

